

環境

のさづ

う岩と呼ばれる岩石である。岩

インド北部のラダークには



ツンドラで最近には樹木

沖縄の泡瀬干潟

沖縄本島中部に広がる泡瀬干潟(沖縄市)の一部を埋め立てて人工島を造る工事を、内閣府が10月14日、2年ぶりに再開した。「経済合理性がない」との司法判断や環境悪化への懸念から埋め立て面積は半分に縮小されたが、生態系への影響対策や津波や液状化など防災上の課題は解決されていない。

埋め立て事業は80年代にリゾートホテル建設計画として浮上。06年に本格的な埋め立て工事が始まった。しかし、民主党は「環境負荷の大きい事業」と位置づけ、09年9月、前原誠司国土交通・沖縄・北方担当相(当時)が、1期工事の中断と2期

泡瀬干潟

貝類300種以上、鳥類165種、海草13種などが生息。埋め立て地周辺にはサンゴ群落があり、国内有数の生物多様性を誇る。藻場は沖縄で最大規模で魚やウミガメの餌場になっている。面積266%

に貢献目指す

浄土

の流木や漁具が流れ着きました。所々不通になった道路を縫い、基

「生態系」「防災」置き去り

埋め立てを再開

工事中止を表明。同10月には福岡高裁那覇支部が「経済的合理性が認められない」と当初計画への公金支出の差し止めを命じ、工事は中断していた。

新しい事業計画では、国と県が干潟の一部などを埋め立て、沖縄市がスポーツ施設などを造成する。埋め立て面積は当初の187畝から約95畝に半減した。事業総額は民間投資を含めて約1000億円、埋め立ては16年度に完成予定。沖縄市は18年に年間327万人が施設を利用し、公共施設の維持管理費などで年1億8000万円の赤字になると見積もる。市は「税金など経済波及効果が大きい」と理解を求め、しかし、首里城ですら年間観光客

数は180万人。地元の「泡瀬干潟を守る連絡会」の前川盛治事務局長は「あまりに現実離れした見積もり」と憤る。

泡瀬干潟埋め立て計画



「足立旬子」

か」と中止を求める。

県は「全体として見れば、藻場は回復傾向にある。東日本大震災を受け、港湾施設全体で地震対策を見直している」と説明する。

【足立旬子】

しい自然を守り、活用しようとする人々の姿も目を引きまします。陸中海岸の景観を特徴付ける断崖や奇岩の風景はその雄姿を今なお残し、消失したかに思えた海浜植物の花も各所で

ク、エコツーリズムを柱とした新しい国立公園を創設しようとの構想です。南北を縦断する海岸長距離歩道を整備する計画も加え、三陸地域の復興に貢献することを目指しています。

ようになりました。トナカ 温が上昇し、降水量が増え 第3月曜日)になりました。イは虫が嫌いなので、虫の るだろうと、複数の研究で 「生き物カレンダー」は次回21日に掲載予定です。

最近では、